

フォレストニュース

植林が地球を救う
平成22年(2010)10月10日
No. 34
発行 高津啓洋

ボランティア隊帰国

9月10日、植樹ボランティア隊員12名が、パラグアイから帰国しました。8月25日に出発してから、片道30時間にも及ぶ長旅にもかかわらず皆さん元気でした。

今回は、33号で途中経過を報告しましたが、インディヘナのカトルセマジョ村の植樹、バイアネグロ市の植樹、ミングアス市の植樹を行いどこも天候にも恵まれ、大成功を収めました。

女性隊員の感想を掲載します。

カトルセ・マジョにおいては、たくさんの衝撃を受けました。船から村へ足を踏み出すと、たくさんのフンとゴミが落ちており、また、子供たちの服、体はよごれていました。そんな中、子供たちの目はとても輝いており、純粹でした。私達を村全体で温かく迎えて下さっている



ミングアス市で5000本を植樹



元気に帰国しました(成田)

ことを感じられました。同じパラグアイの国の中でも、アスンシオン、ローマ・プラタ、カトルセ・マジョ、バイアネグロと暮らしの違いには驚きました。濁った川の水を飲み、川の水で体を洗っている姿を見て、複雑な気持ちになりました。植樹活動ではどの子も積極的に動いてくれました。たくさん話しかけてくれたのに、言葉が分からず、返事が出来なかったのは悲しかったです。しかし、お互い笑顔とスキンシップで交流する事が出来ました。カトルセ・マジョもバイアネグロもミングアスの小学生も短時間の間で一緒に植樹をし、仲良くなれことが嬉しかったです。

自然の素晴らしさに魅了されました。逆に開拓の大変さを知ることも出来ました。パンタナールが環境問題、食糧問題などに取り組む上でも重要な地域であるのだと分かりました。

家庭・企業で400本の森

今、パンタナールに地球の緑を守る会の会員の方や趣旨に賛同されて支援して下さいの方々によって、緑の森が増えつつあります。引き続き、400本の森づくりをすすめています。400本で看板を一枚設置しています。家族でも、また会社でも、毎月の引落や、支援の積み重ねから大きな森をつくるようになります。皆様のご協力をお願い致します。

現在は、主にニームを植えています。ニームは今世紀最大の贈り物と、国連が絶賛したものです。理由は、村の薬局と言われるように、治療には欠くことのできない



3年で6メートル以上に成長

木なのです。また研究が進み、近年その薬効が多くの分野で役立っています。

パンタナールは雨季と乾季がはっきりとして、乾季に強いニームは、雨が降らない日照りの中にも新芽が伸び成長を続けています。植樹の協力をお願い致します。

救おう絶滅危惧種



10月11日から29日まで、COP10・「生物多様性条約」の締結国会議が名古屋で開催されます。

「生物の多様性に関する条約(生物多様性条約: Convention on Biological Diversity)」は、ラムサール条約やワシントン条約などの特定の地域、種の保全の取組みだけでは生物多様性の保全を図ることができないとの認識から、新たな包括的な枠組みとして提案されました。

国連環境開発会議(地球サミッ

ト)に先立つ1992年5月22日に採択され、リオデジャネイロ(ブラジル)で開催された同サミットにおいて署名開放されました。翌1993年12月29日に発効し、2009年12月末現在、193の国と地域がこの条約を締結しています。日本も1993年5月に締結しています。

条約の3つの目的

- ①地球上の多様な生物をその生息環境とともに保全すること
- ②生物資源を持続可能であるように利用すること
- ③遺伝資源の利用から生ずる利益を公正かつ衡平に配分すること

